中間時代
反キリストの予表

聖書フォーラム　福岡集会

2020年4月18日

出典："The Feasts and Fasts of Israel" Arnord G. Fruchtenbaum, TH.M,PH.D

1

ダニエル書第11章の構成

- 先代の王たち（2～20節）
- アンティオコス４世（21～35節）
- 反キリスト（36～45節）

2

先代の王たち（BC480～175）

- ペルシヤの王　アハシュエロス（2節）
- ギリシヤの王　アレキサンドロス（3～4節）
- 北の王たちと南の王たちの戦い（5～20節）
- 19節　北　アンティオコス３世（大王）
- 20節　北　セレウコス４世フィロパトル

3

アンティオコス４世の登場

- アンティオコス３世（大王）の子
- 前の王の弟
- 前の王が殺されて、表舞台へ
- 正統な王位継承者は、前の王の子＝甥
- 甥の後見人のふりをして登場

4

王位を横領する（21節）

- 卑劣な者
- 国の尊厳は与えられない
- 不意に（安全なときに）やって来て

5

巧言を使って国を堅く握る（21節）

- 陰謀・策略を用いて王位をものにした
- 他国の王などと組んで資金・軍事力を
- 正統な王位継承者（甥）を暗殺
- 暗殺実行者も口封じのため闇へ

6

洪水のような軍勢も打ち砕く（22節）

- アンティオコス４世に反対する勢力
- 洪水のような軍隊＝大軍
- アンティオコス4世は、敵軍を打破

7

契約の君主をも打ち砕く（22節）

- モーセ契約（律法）におけるリーダー
- 大祭司（レビ族アロンの家系、終身職）
- 大祭司オニアスを辞めさせた
- 自分の意に沿う者に替えた

8

彼は同盟してはこれを欺き（23節）

- エジプト王とは、おじ・甥の関係
- 前170年、エジプトと同盟条約
- 表向きは、友邦関係を結ぼう
- 本心は、エジプトへの影響力強化

9

ますます小国の間で勢力を得る（23節）

- 西からローマ帝国の勢力が伸びてきた
- シリヤの支配地域は縮小傾向
- アンティオコス４世が勢力を得るといっても
- 比較的小規模な領域

10

不意に肥沃な地域に侵入する（24節）

- 不意に＝安全なときに
- 相手方に安全だと思わせておいて
- 警戒を緩めたところを突いて攻撃する
- 攻撃対象は、農産物の豊かな地域
- 警告なしに攻め込んで、収穫物を奪った

11

彼の父たちもしなかったことをする

- 彼は、分捕り物を、彼らの間で分け合う
- 彼ら＝略奪戦に参加する協力者たち
- 協力者たちに分配して、つなぎとめる
- 王室の金庫にゆとりなし

12

たくらみを設けて要塞を攻めるが、それは時が来るまでのこと（24節）

- エジプトはじめ他国への陰謀と攻撃を続けた
- しかし、それも、神が許す時まで
- 彼の治世は、12年間

13

第１次エジプト戦役（25～28節）

- 北のシリヤが南のエジプトを攻撃
- エジプトは内部から裏切りが出て敗北
- しかしシリヤの思惑には乗らず併合は免れる
- かわりに財宝を差し出す
- ユダヤではシリヤに対する反乱勃発
- シリヤは帰国途上で、反乱を制圧

14

聖なる契約を敵視して（28節）

- 北の王が死んだとのデマ→シリヤへの反乱
- 帰国途上で、制圧戦３日間
- モーセ契約（律法）に基づく祭司制度を敵視
- ユダヤ人の死者４万人、奴隷４万人

15

第３次エジプト戦役（29～30節）

- 「再び南へ」、歴史上は３度目の戦役
- 今度こそは、征服併合をめざす
- キティムの船＝ローマの軍船
- 上陸したローマ軍と衝突し、敗北
- ローマ軍の要求を受け入れ、撤退

16

エジプトからの撤退（30節）

- 落胆する・・・エジプト征服の夢が消える
- 引き返す
- 聖なる契約にいきり立つ・うっ憤をユダヤ人に
- ほしいままにふるまう・・迫害プログラム実行
- 帰って行く・・・・イスラエルの地に再び来る

17

聖なる契約を捨てた者たち（30節）

- モーセ契約を捨てたユダヤ人たち
- ギリシヤの文化や宗教を取り入れよう
- ヘレニスト
- このときすでに大祭司は、不正な人物に交替
- アンティオコス４世は、ヘレニストを重用

18

彼の軍隊は立ち上がる（31節）

- 直訳「その勢力は、彼の側に立つ」
- その勢力とは、モーセ契約を捨てたユダヤ人たち
- ヘレニスト
- 彼らはアンティオコス４世の側に立った
- アンティオコス４世も彼らを重用した

19

ヘレニストたちの行動（31節）

- 聖所を汚す・・・祭壇で豚をささげた
- とりでを汚す・ダビデの町にシリヤ軍と駐留
- 常供のささげ物を取り除く・・・毎日朝夕のささげ物をやめさせた
- 荒らす忌むべきものを据える

20

荒らす忌むべきもの（31節）

- 忌むべきもの＝偶像
- アンティオコス４世はゼウス像を据えた
- 前168年　キスレウの月（11～12月）25日
- 神殿域、「祭壇の上に建てた」
- 豚の犠牲、遊女を入れての儀式
- 神殿と神殿域は汚れ、さびれ、荒廃した

21

ユダヤ人による反乱（32～35節）

- 契約を犯す者たち・・・アンティオコス４世の側に立ったユダヤ人たち
- 自分の神を知る人たち（32節）
- 民の中の思慮深い人たち（33～35節）
- 巧言を使う多くの人（34節）

22

自分の神を知る人たち（32節）

- 祭司マタティアと5人の息子たち
- 反乱を指導した家族
- 祭司マタティアは１年で戦死
- 三男ユダが引き継ぐ
- 別名マカベア（マカバイオス）「鉄槌」

23

堅く立って事を行う（32節）

- （直訳）彼らは強い、そして偉業を成し遂げる
- シリヤ軍を何度も打ち破った
- 前165年　エルサレムを奪回
- キスレウの月25日　神殿をきよめた

24

民の中の思慮深い人たち（33～35節）

- ユダヤ人の中の賢い人たち
- 多くの人を教え導いた
- 王の禁令に背く→死（剣にかかり、火に焼かれ、とりことなり、かすめ奪われて倒れる）
- 彼らへの助けは少ない（34節）・・・助けとなったのはマカベアたち、しかし小さな助け

25

巧言を使う多くの人（34節）

- マカベアたち反乱軍が優勢になる
- 本心はヘレニストに同調
- 形勢を見てマカベア党のふりをする
- 後に次男シモンの子からハスモン王朝
- ハスモン王朝の政治姿勢はヘレニストへ

26

迫害における神の目的（35節）

- 思慮深い者たちのある者は、彼らを練り、清め、白くするために倒れる
- 迫害の起きることを、神が許されるのはなぜか
- 信仰の義人たちを、練り、清め、白くするためである

27

練り、清め、白くする

- 練る・・・金属を溶解製錬して不純物を除く
- 清める・・・小麦をふるいにかける
- 白くする・・・洗ったり、磨いたりする

28

苦しみの期間は定められている

- 35節後半　「終わりの時まで、それは定めの時がまだ来ないからである」
- アンティオコス４世を王とする期間は、
- 神が定めておられる
- 終わりの時まで＝王の治世が終わるときまで
- 前164年

29

反キリスト（36～45節）

- 彼の性格や所業（36～39節）
- 大患難期中間での世界征服戦争（40～45節）
  - 南の王　エジプト
  - 東の王　イラク・イラン
  - 北の王　シリヤ
- 45節　戦死（→よみがえって3人の王を倒す）

30